

卓球競技 競技上の注意・ルールについて

■あいさつ

試合前・試合後は「相手」と「審判」にあいさつをする。

■カウント版の正しい使用

①選手がいないときはゲーム・スコアカウントともに空白。

①選手が来た→ゲームカウントを0-0に。スコアカウントは空白。(→練習)

②1ゲーム目開始→スコアカウントを0-0に。「ラブオール!」

スコアの合計が6の倍数→得点版を45度左右にクロスする→戻す

③1ゲーム目終了、スコアカウントそのまま(例:11-9)、ゲームカウントそのまま(0-0)

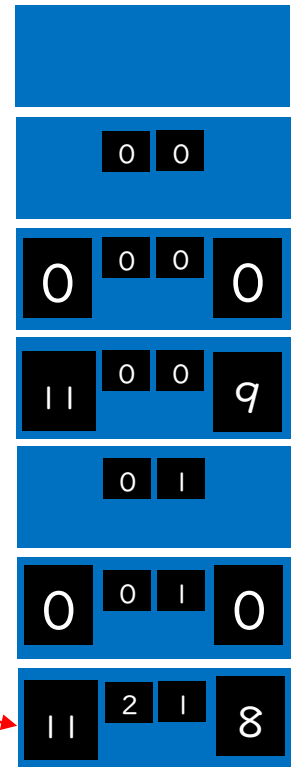
④2ゲーム目選手が来た→スコアカウント空白に→ゲームカウント1-0に

⑤2ゲーム目開始→スコアカウントを0-0に。「ラブオール!」

⑥以降繰り返す。

⑦試合(マッチ)終了時の表示例:4ゲーム11-8で試合(マッチ)終了

「ゲームカウントは2-1、スコアカウントは11-8」※ゲームカウントを3にしない



■タイムマネジメント

練習は2分、ゲーム間・タイムアウトは1分、促進ルール適用基準はランニングタイム11分(静岡県高体連ルール)

※スロープレー「イエローカードの対象となるプレー」

・意図的に間を長く空けていることを指す(相手が台についているのに5秒以上の間がある)。選手が明らかに間を取りすぎている場合、審判は両腕を内側に入れる動作をし、「プレー!」と声をかける。ひどい場合は審判長まで。

・6点ごとのタオル休止は汗拭きだけ。

■サービス(違反サービスに注意)

・トスは手の平をしっかりと開いて行う。

・トスは“ほぼ垂直”に上げる。

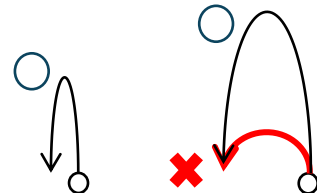
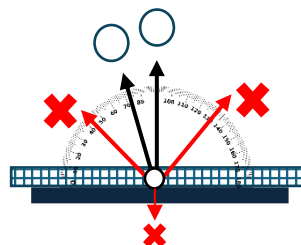
・トスの際、ボールを台の下に下げない。

・トスの際、ボールが手を離れてから16cm以上あげなければならない。

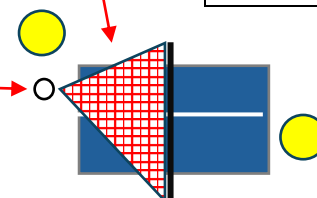
・トス～インパクトの間、ボールとサポートを結ぶ三角形の赤色部分に手・肩・頭等を入れてはいけない。

またサービスが開始されてから、ボールが打たれるまでの間、ボールをレシーバーから隠してはならない。

・トスの際、ボールと手の位置がエンドラインよりも外に



<上から見た図>



■ウェア・ラケット・ラバーのチェック (不明な場合は審判長まで)

・JTТАやITTFがついているか確認。ラバーのはみだし or 欠損が2mmを越えないように。

・ラバー全面がラケットに接着されていること。一部接着が剥がれてラバーが浮いてないように。

■ネットアセンブリのチェック(サポート・ネットを正しく張る)

サポートを引っ張ってのネットの張りや高さの調節は行わない。

